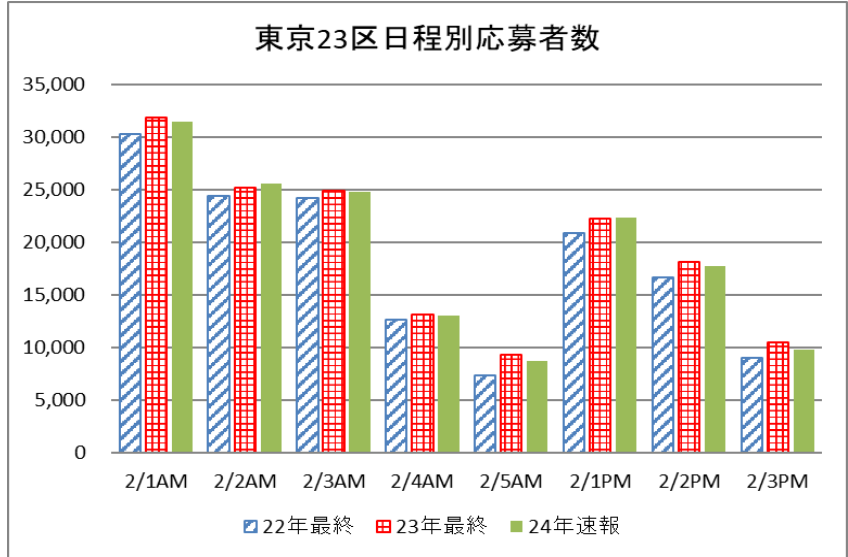


東京23区中学入試概況

1. 概況 応募総数は減少、隣接県や多摩地区からの流入も減少

東京23区の公立小6児童数は義務教育学校も含めて約64,000名で昨年より約400名減っています。修正済み東京23区内の中学受験の応募総数は、私立、国立、公立一貫校の合計で、2月28日現在、1月までの帰国入試を含めて約165,100名です。昨年の最終が約168,300名でしたから、約3,200名減っています。東京23区の公立小学生の減少は僅かですが、今年は隣接県や多摩地区は合計で約4,800名減少していることもあって、東京23区に応募総数が減っています。



上のグラフは東京23区内の2月1日以降の中学受験の応募者数を日程別に合計し、一昨年、昨年と比較したものです。今年は速報値で、私立、国立、公立一貫校の合計ですが、都内で実施される地方校の入試は含んでいません。応募総数では2月1日午前が最多で約31,500名、昨年より約300名の減少です。1日午前には多くの受験生が第一志望校に挑戦する日ですから、この減少は中学受験生の減少の表れです。2番目は2日午前の約25,600名で昨年よりも500名弱の増加、3番目の3日午前は24,800名で100名弱の減少です。4日午前、5日午前になると応募総数は少なくなり、1日午後や2日午後の入試の方が多くなりますから、今年も多くの受験生が3日午前までに受験を終了していることとなります。4日午前は約13,000名で昨年より約200名減、5日午前は約8,700名で、昨年より700名弱の減少です。

午後入試は、1日午後が約22,300名で昨年とほぼ同じ、2日午後は約17,800名で300名あまりの減少です。3日午後になると5日午前に近い応募総数の約9,900名で、昨年より約700名減っています。2月1日午前には大多数の受験生がどこかの学校に挑戦しますが、1日午後、2日午前、3日午前は、受験を休むケースがあるものの1日午前の7~8割の応募者数、2日午後は5割あまりですから、ここまでの受験がメジャーです。

グラフの昨年を見ると、1日午前や午後、5日午前や2日午後、3日午後の増加が目立っています。1日午前、午後は中学受験拡大で、志望順位が高い学校に挑戦する受験生が増えたことを表していて、5日午前や2日午後、3日午後は、早い日程の入試での不合格者の再挑戦の追加出願が増えていました。しかし、今年のグラフではそのような動きが見られません。中学受験生が減っただけでなく、安全志向が強まって、早い日程で合格した学校に入学手続きを行い、遅い日程まで再挑戦を続けない、「入試早じまい」の動きが強くなったことを表しています。

難易度別の応募総数の推移も見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA~Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。Aは難関校、Bは上位校、Cは中堅校、Dはやや入り易い学校、Eは入り易い学校です。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学校・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難

易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。各グループの学校は13ページに一覧で表示しました。

男子はBグループの応募者が一番多く、約26,000名ですが、昨年よりかなり減っています。難関校のAグループは約15,000名、中堅校のCグループは約23,000名で、それぞれ増えています。Aグループの増加は、難化が続いてきた本郷と広尾学園の本科がBグループからAグループに変更された影響が大きく、その分を差し引くと減ってしまいますので、難関校の人气が上がったとは言にくい面があります。Cグループの増加も学校の難度の変更が影響していますが、同時に安全志向の強まりで、Bグループだったら受験生が増えなかった学校が、Cグループになったために受験生が増えた面はあります。やや入り易いDグループは約18,000名で昨年並み、入り易いEグループはかなり少なくなっています。Eグループの学校自体が難化で減っている面もあります。

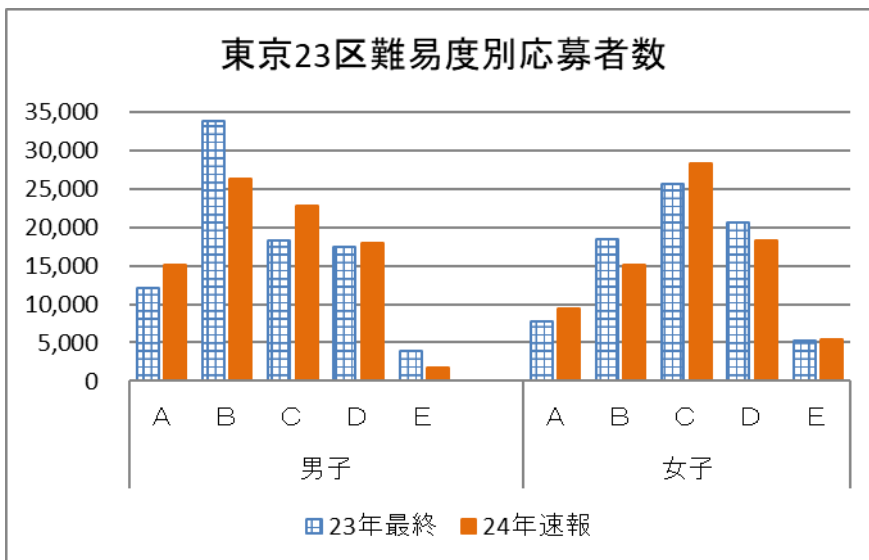
女子も上位校のBグループは約15,000名で、昨年より減っています。その分難関校のAグループと中堅校のCグループが増えています。Aグループは9,000名あまりで、増えても男子ほどの応募者数ではありません。増加は御三家などの最難関校よりも共学校、BグループからAグループに変更になった学校の人气が中心です。Cグループは約28,000名で女子の最多です。Bグループが最多の男子とは学校選択傾向が違ってきます。やや入り易い学校のDグループは約18,000名で昨年より減っていますが、こちらは学校の難度の変更よりも、早い日程での合格が増えて追加出願が減った影響でしょう。入り易いEグループは最少で、昨年並みの応募者数ですが、男子よりは受験生に選ばれています。

以下、男子校、女子校、男女校の順で各校の状況を見ていきます。

2. 男子校

<難関校～中上位校>

まず男子御三家から。開成はほぼ昨年並みの応募者数で、実際の受験者数、合格者数も同様です。合格最



低点は下がっていますが、出題内容との関係でしょう。今年も高難度の入試でした。麻布は応募者が少し減っています。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数はほぼ昨年並みで、合格最低点は昨年と同じですから高難度に変化は見られません。武蔵も今年は応募者が少し減っていて、実際の受験者数も同傾向です。合格者数はやや減っていますが、合格最低点は上がっていて、出題内容との関係はありますが、やや難化したかもしれません。

駒場東邦は、応募者が少し増えていて、実際の受験者数も増えています。合格者数は若干減っていて、合格最低点は下がっています。昨年上がったので、出題内容を調整したのでしょう。難度はあまり変わっていないようです。国立の筑波大駒場は、応募者、実際の受験者数が少し増えていて、合格者数は昨年並みですから実質倍率は上がりました。合格最低点は上がっていますが、昨年は下がったので出題内容を調整したようです。今年も高難度の入試でした。

海城は帰国生入試、2月1日午前の1回、3日午前の2回とも応募者が少し減っています。実際の受験者数も少し減りましたが、各回次合計の合格者数は逆に少し増えています。合格最低点は帰国生入試が少し下がり、1回は昨年並み、2回はやや上がりました。1回は昨年並みの難度だと思われますが、2回はやや難化したかもしれません。早稲田は、2月1日午前の1回、3日午前の2回とも応募者数がやや増えていて、実際の受験者数も同傾向です。合格者数は1回が昨年並み、2回はやや絞っています。本稿執筆時点で今年は合格最低点が未公表ですが、1回は昨年並みの難度、2回はやや難化したかもしれません。

暁星の各回次合計の応募者数はやや減っていますが、2月2日午前の1回は昨年並みの応募者数で実際の受験者数、合格者数も昨年並み、応募者は帰国生入試と3日午後の2回が少し減っていますが、2回は実際の受験者が増えていて、合格者も増えました。出題内容との関係はありますが、合格最低点は1回が上がって少し難化したようです。2回は下がっていますが、特に入り易くなったわけではなさそうです。

芝の2月1日午前の1回は応募者がやや増えて、4日午前の2回は昨年並みです。実際の受験者数も同傾向で、合格者数は1回、2回とも昨年並みです。合格最低点は1回が昨年並みで難度も変わっていないと思われませんが、2回は上がっていて、出題内容との関係はありますが、少し難化したかもしれません。本郷の各回次合計の応募者数は昨年並みで、2月1日午前の1回は減って、2日午前の2回は昨年並み、5日午前の3回は増えています。実際の受験者数も同傾向ですが、合格者数は各回次とも概ね昨年並みです。合格最低点は1回が下がり、少し入り易くなったかもしれません。2回は少し上がり、やや難化した可能性があります。3回は昨年並みで、難度に変化はないでしょう。

巣鴨の各回次合計の応募者数は少し増えていて、2月2日午前の2回が少し減りましたが、他の回次は増えています。実際の受験者数も同傾向ですが、合格者数は1日午前の1回と午後の算数選抜が昨年並みだったものの、2回と4日午前の3回は減っています。合格最低点は3回がやや上がったほか、他の回次はすべて上がっています。出題内容との関係はありますが、全体に難化した入試だったようです。

城北は、各回次合計の応募者数が少し減っていますが、2月1日午前の1回は昨年並みで、3日午前の2回、5日午前の3回は減っています。実際の受験者数は1回がやや増加、2回と3回は減っていて、合格者数は各回次とも昨年並みです。出題内容との関係ですが、合格最低点は1回と2回は昨年並みで難度に変化はなさそうで、3回はやや上がって少し難化したかもしれません。

東京都市大付属は、I類、II類の類型制です。各回次とも応募者が減っていて、特に2月1日午前の1回の減少が目立ちます。実際の受験者数も同傾向で、合格者数は類型間のスライド合格もあっていろいろです。合格最低点は1回と5日午前の4回はI・II類とも上がっていて、他の回次は昨年並みです。出題内容や得点分布の関係はありますが、昨年並みだった回次も含

めて全体にやや難化しているのかもしれませんが。今年の実験者減も難化で敬遠された面があるのでしょう。

世田谷学園は理数と本科の2コース制です。各回次合計の応募者数は少し減っています。2月1日午後の算数特選と2日午前の2次が減少の中心で、併願受験生が減っているようです。昨年まで増加が続いたので、人気が一段落したのでしょうか。実際の受験者数も同傾向で、1日午前の1次と4日午前の3回は昨年並みです。合格者数は算数選抜や2次も含めて各回次とも昨年並みでした。合格最低点は算数選抜が上がり、3次と1次の理数は下がって、2次と1次の本科は昨年並みでした。出題内容や得点分布の関係はありますが、理数選抜はやや難化したようです。他の回次は昨年並みの難度でしょう。

攻玉社は2月5日午前の特別選抜が昨年並みの応募者数でしたが、国際学級も含めて他の回次は増えています。実際の受験者数は特別選抜が少し減りましたが、他の回次は増えていて、合格者数は特別選抜も含めて昨年並みです。合格最低点は特別選抜が少し下がりましたが、他の回次は昨年並みです。特別選抜は実質倍率も下がっているのやや入り易くなったかもしれません。他の回次は昨年並みの難度でしょう。

内部進学率が高い大学附属校では、早大学院は応募者数、実際の受験者数が減っています。合格者数は昨年並みで、実質倍率は少し下がりました。合格最低点は公表されていませんが、やや入り易くなったかもしれません。立教池袋は2月2日午前の1回が昨年並みの応募者数、帰国生入試は少し減り、5日午前の2回も減っています。実際の受験者数は1回も含めて少し減っていて、合格者数は各回次とも昨年並みです。今年も補欠は出ていますが、1回、2回とも合格最低点は下がっていて、出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったかもしれません。

明大中野は2月2日午前の1回の実験者が少し増えて、4日午前の2回は昨年並みです。実際の受験者数は同傾向ですが、合格者数は1回が昨年並み、2回は絞っています。合格最低点は1回がやや下がっていて、2回は昨年並みです。出題内容との関係はありますが、難度は昨年とあまり変わっていないようです。

学習院は、帰国生入試の実験者が少し減りましたが、2月2日午前の1回も3日午前の2回も実験者が増えています。実際の受験者数も帰国生入試は減っていますが、1回と2回は増えていて、合格者数は各回次とも減っていますから、1回と2回は実質倍率が上がっ

ています。合格最低点は1回と2回とも昨年並みですが、出題内容との関係はありますが、難度はともかく、ボーダーライン付近が厳しくなった入試だったようです。

<中上位校~中堅前後の各校>

日本学園は 2026 年度から明治大学の系列化で校名を「明治大学付属世田谷」に変更して共学化の予定です。昨年は応募者が前年の約4倍に増える過熱した人気でしたが、今年は2月5日午前の3回の応募者が少し増えたものの、1日午前の1回、4日午前の2回は減少が目立ちました。今年から2科選択を取りやめて4科に統一したこともあって、難度から断念した受験生も多かったようです。合格最低点は1回が上昇して少し難化したようです。2回は昨年並み、3回は少し下がっていますが、入り易くなることは考えにくく、昨年並みの難度が続いていると考えた方が良いでしょう。

日大豊山は各回次とも応募者が少し減っています。男女校の日大系列校のところで記していますが、マスコミで報じられた日大問題はあまり影響していないようで、むしろ上がっていた同校の人气が落ち着いてきたと考えた方が良いでしょう。実際の受験者数も減っていますが、各回次合計の合格者数は昨年並みでした。各回次とも合格最低点は下がっていて、少し入り易くなったようです。獨協は併設大学がありますが、附属校カラーはほとんどありませんでした。しかし、獨協医大への推薦枠ができて注目されています。2月1日午前の1回は昨年並みの応募者数ですが、他の回次は増えていて、実際の受験者数も同傾向です。合格者数は1日午後の2回と2日午前の3回が増加、1回と4日午前の4回は昨年並みで、合格最低点は1回が下がり、2回が上がって3回と4回は昨年並みです。出題内容や得点分布との関係はありますが、全体に難度はあまり変わらないものの、ボーダーライン付近が厳しくなった入試だったようです。

進学校では、成城は各回次とも応募者数が少し増えています。実際の受験者数は2月1日午前の1回が昨年並み、3日午前の2回、5日午前の3回は増えていて、合格者数は1、2回が昨年並み、3回は絞っています。3回は合格最低点が上がっていて、少し難化したでしょう。1、2回も昨年並みの難度だったようです。高輪も各回次とも応募者が増えていて、特に2月1日午前のAは増加が目立っています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は少し絞っていて、平均の実質

倍率はアップしています。合格最低点は2日午前のBが少し下がっていますが、出題内容や得点分布の関係でしょう。他の回次は昨年とあまり変わっておらず、難度はともかくとして、ボーダーライン付近が厳しくなった入試だったようです。

聖学院の各回次合計の応募者数は少し減っています。実際の受験者数も少し減りましたが合格者数は増えて、平均の実質倍率はやや下がりました。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、目立って入り易くなったわけではなさそうです。佼成学園はグローバルコースと一般コースの2コース制です。2月1日午前の適性検査型入試以外は各回次とも応募者の増加が目立っていて、今年も増加が続いています。実際の受験者数も適性検査型入試以外は増えていて、合格者数は増えていますが多くの回次で実質倍率が目立って上がっています。合格最低点も上がっている回次が多く、全体に少し難化した入試です。

京華は特選・中高一貫の2コース制で、各回次合計の応募者数は昨年並みです。実際の受験者数はやや減っていて、合格者数は少し増えています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化は見られません。足立学園は、全回次で応募者が増えていて、合計ではかなり増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者は若干増えただけで、実質倍率は各回次で上がっています。合格最低点の一部昨年と上下している回次がありますが、多くは昨年並みで、難度面はあまり変わっていないものの、ボーダーライン付近が厳しくなった入試だったようです。

3. 女子校

<難関校~中上位校>

女子御三家の桜蔭は、応募者がやや減っていますが例年の変動の範囲でしょう。合格最低点は未公表ですが、すでに限度いっぱいに近い難度ですし、今年も補欠を出していますから難度に変化はなさそうです。女子学院は昨年並みの応募者数です。実際の受験者数も合格者数も昨年並みで、同校も合格最低点は未公表ですが難度に変化はなさそうです。雙葉も昨年並みの応募者数で、合格者数なども昨年並みですが、合格最低点は下がっています。昨年から上がっていたので出題内容を調整したのかもしれませんが、難度はあまり変わっていないようです。

御三家に続く豊島岡女子は、2月2日午前の1回、3日午前の2回、4日午前の3回とも応募者が少しずつ

減っています。安全志向の強まりの影響でしょう。合格最低点は各回次とも昨年並みです補欠も出ていますから、難度に変化はなさそうです。白百合学園は帰国生入試、一般入試とも昨年並みの応募者数ですが、一般入試は合格者をやや絞ったようです。一般入試の合格最低点は上がっていて、出題内容との関係はありますが、少し難化したかもしれません。鷗友学園は、2月1日午前の1回、3日午前の2回とも応募者が少し減りました。2回は合格者が増えて実質倍率が緩和しましたが、合格最低点は1回、2回とも昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度に変化はなさそうです。

学習院女子は、一般入試の応募者が2月1日午前のA、3日午前のBとも増加が目立っています。面接を取りやめたことが人気につながっています。合格最低点はA、Bとも概ね昨年並みで、難度に変化はなさそうです。立教女学院は一般入試の応募者の減少が目立ちます。昨年は増えていましたから反動かもしれません。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合格最低点は昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。

東洋英和女学院の一般入試は2月1日午前のAが少し増えて、3日午前のBは昨年並みです。Bは合格者を絞っていて、実質倍率が少し上がりました。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、Aは昨年並みの難度、Bはやや難化したかもしれません。頌栄女子学院の一般入試は2月1日午前の1回の応募者がやや増えて、5日午前の2回も増えています。人気が上がっています。合格最低点は概ね昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度はあまり変わっていないようです。

香蘭女学校は2月1日午前の1回、2日午後の2回ともほぼ昨年並みの応募者数です。1回は2科選択を取りやめましたが影響は見られません。合格者数は1回、2回とも絞っていて合格最低点は両方とも上がっています。難化した入試でした。大妻の一般入試は各回次とも応募者数が少し増えていて人気が上がっています。2月1日午前の1回、2日午前の2回は昨年並みの合格者数、3日午前の3回と5日午前の4回は少し絞っています。入学手続き状況からの判断です。合格最低点は1~3回が昨年並み、4回は上がっていて、出題内容との関係はありますが、4回は少し難化したと思われる。

<中上位校~中堅前後の各校>

普連土学園は各回次とも応募者の増加が目立ちます。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は絞っている回次もあります。合格最低点は2月1日午後、2日午後の入試は昨年並み、1日午前と4日午前は少し上がっていて、やや難化したかもしれません。山脇学園の各回次合計の応募者数は少し減りました。実際の受験者数も少し減りましたが、合格者数は少し増えています。2月1日午前の一般Aと4日午前の一般Cは合格最低点が少し下がっていて、他の回次は昨年並みです。出題難度との関係はありますが、一般AとCは少し入り易くなったかもしれません。他の入試は昨年並みの難度でしょう。

実践女子学園は各回次合計の応募者数が少し減っています。実際の受験者数も少し減っていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は2月3日午後の5回が上がり、他は昨年並みです。5回は得点分布の関係でしょう。各回次とも難度は昨年並みだったようです。共立女子は各回次合計の応募者数が増えています。増加の中心は2月3日午後の入試で、特に英語4技能入試は小規模ですが増加が目立ちます。実際の受験者数、合格者数は昨年並みで、合格最低点は2月1日午前が少し下がっていますが、得点分布の関係でしょう。他の回次は昨年並みで、全体に難度は昨年とあまり変わっていないようです。

大妻中野はアドバンスト、グローバルリーダーズの2コース制です。各回次合計の応募者数は少し増えています。2科選択入試を取りやめましたが影響は受けていません。増加の中心は2月2日午後以降の入試です。「ぜひ同校に」と考える受験生が増えているでしょう。実際の受験者数も少し増えています。合格者数は受験者数ほどには増えていません。合格最低点は2月1日午前、午後がやや下がっていますが、得点分布の関係で、難度は変わっていないようです。他の回次は昨年並みで、全体的に昨年並みの難度でしょう。

恵泉女学園の各回次合計の応募者数は少し減っていて、日程が遅い入試は減少が目立っていますが、2月1日午後の1回は若干減った程度ですから、志望順位が高い受験生は減っていません。合格最低点は2日午前の2回が少し下がっていて、1回と3日午後の3回は昨年並みです。出題内容との関係はありますが、2回は少し入り易くなったかもしれません。1回と3回は昨年並みの難度でしょう。品川女子学院は、各回次合計の応募者数がやや減っていますが、実際の受験者

数は昨年並みで、合格者数もあまり変わっていません。合格最低点も各回次とも昨年並みで、難度も昨年並みでしょう。

田園調布学園の各回次合計の応募者数は少し減りました。2月1日午前、午後の入試が減少の中心で、難化傾向があったことから、比較的志望順位が高い受験生が少し敬遠したのかもしれませんが。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は変わっていないようです。東京女学館は一般学級・国際学級の2コース制です。各回次合計とも応募者数は昨年並みか少し増えています。実際の受験者数は増えていますが、合格者数は絞っていて、多くの回次で実質倍率は上がりました。合格最低点は2月2日午後の一般と国際学級が少し下がっていますが、得点分布の関係でしょう。他の回次は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

富士見の各回次合計の応募者数は昨年並みで、回次ごとの応募者数も昨年とあまり変わりません。実際の受験者数はやや減っていて、合格者数は昨年並み、合格最低点は2月2日午後の算数入試が上がっていて、他は昨年並みですが、算数入試は得点分布の関係でしょう。全体に難度はあまり変わっていないようです。昭和女子大附属はスーパーサイエンス、グローバル、本科の3クラス制です。今年の各回次合計の応募者数は少し減っていますが、実際の受験者数は増えていて、合格者数も増えました。合格最低点は一部合格者数が少ない回次で上昇が目立つものがありますが、それ以外は昨年並みで、昨年並みの難度でしょう。

女子美術大付属は、各回次とも応募者数は昨年並みで、実際の受験者数、合格者数もあまり変わっていません。合格最低点も各回次とも昨年並みで難度も昨年並みでしょう。光塩女子学院の各回次合計の応募者数も昨年並みですが、内訳では2月1日午前の1回が少し減りました。このため、実際の受験者数の合計も少し減っています。合格最低点は1回が昨年並みで難度に変化は見られませんが、2日午前の2回は下がり、4日午前の3回は上がっています。出題難度との関係はありますが、2回は少し入り易くなり、3回は難化したようです。

江戸川女子は国際コースと一般コースの2コース制です。各回次合計の応募者数は大きく増えました。英語入試の増加が目立ちますが、通常の科目の入試も増えています。実際の受験者数、合格者数も増えています。本稿執筆段階で合格最低点は未公表ですが、難度自体はあまり変わっていないようです。跡見学園の

各回次合計の応募者数は少し増えました。2月1日午後の特待入試以外は各回次とも少しずつ増えています。実際の受験者数、合格者数は昨年とあまり違いはありません。合格最低点も各回次とも昨年とあまり変わっておらず、難度は昨年並みでしょう。

三輪田学園の各回次合計の応募者数は今年も増えて3年連続の増加ですが、今年は2月3日午前入試はやや減っていて、入試早じまい傾向が表れた結果です。合格最低点は多くが昨年並みで難度に変化も見られませんが、2日午前は下がっています。実際の受験者数は増えて合格者数は昨年並みなので、出題内容や得点分布の影響が強いです。実質倍率アップから難化の声も聞かれますが、少なくとも昨年並みの難度と考えた方が良いでしょう。

十文字は、各回次合計の応募者数が少し増えています。2月3日午後や6日午前の応募者の増加が大きく、併願の受験生や、繰り返し同校を受験して何とか合格したいという受験生が増えています。合格最低点は昨年並みばかりでなく上下が目立つ回次もありますが、出題内容や得点分布の影響も大きいようです。学校全体の難度はそれほど変わっていないようです。

文京学院大女子の各回次合計の応募者数は少し増えています。実際の受験者数、合格者数は昨年並みです。合格最低点は一部下がっている回次もありますが、難度に響くほどではありません。各回次とも昨年並みの難度でしょう。東京家政大附属の各回次合計の応募者数は少し減っていますが、2月1日午前、午後は昨年並みですから、志望順位が高い受験生は減っていないようです。実際の受験者数は増えていて、合格者数は昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度面ではあまり変化がなかったようです。

附属校カラーが強い日大豊山女子の各回次合計の応募者数は減っていますが隔年的な変化で、男女校の日大系列校のところで触れますが、マスコミで報じられている、日大をめぐるトラブルの影響はあまりないようです。合格最低点は概ね昨年並みで、難度も昨年並みでしょう。和洋九段女子はグローバルコースと本科コースの2コース制です。各回次合計の応募者数は少し減りましたが、志望順位が高い受験生は減っていないようです。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、不合格者が少ないことから、各回次の難度は昨年とあまり変わっていないようです。

女子聖学院は、各回次合計の応募者数が減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていますが、合

格最低点はやや下がっている回次があるものの、多くは昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度はあまり変わっていないようです。玉川聖学院の各回次合計の応募者数は昨年並みです。実際の受験者数も昨年並みですが、合格者数は増えています。合格最低点は昨年並みで、難度も昨年並みでしょう。トキワ松学園の各回次合計の応募者数は少し増えていて、2月1日午前の応募者数は昨年並みですが、1日午後以降は増えていて、併願前提の受験生が増えたようです。合格最低点は一部上がっている回次も見られますが、出題内容や得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

京華女子は各回次合計の応募者数が昨年に続いて大きく増えています。同校の教育内容への人気だけでなく、2024年度から200mほど移転し、男子校の京華と同じ敷地の新校舎になって、女子校と男子校で共用する設備もできます。国学院久我山や桐光学園のような、男子部女子部の学校と同じように、共学校と別学校の、それぞれのいいところを兼ね備えた学校に変化する予定で、こうしたことへの期待もあっての応募者の増加です。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格最低点は2月1日午前の適性検査型が昨年並みだったほかは、いずれも少し上がっていて、難化は確実でしょう。

校成学園女子の各回次合計の応募者数は増加が目立ちます。実際の受験者数も増えていますが、合格者数はあまり増えていません。合格最低点は概ね昨年並みで、難度はあまり変わっていないようです。麴町学園女子の各回次合計の応募者数は昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表で、難度はあまり変わっていないでしょう。中村は、各回次合計の応募者数は2019年以降増加が続き、今年も増加が目立っていて人気が上がっています。実際の受験者数や合格者数も増えています。昨年は合格最低点が未公表だったため、直接の比較はできませんが、難度は昨年並みでしょう。

富士見丘の各回次合計の応募者数は大きく増えています。多くの回次で増えていて、受験生の期待が表れています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、不合格者はあまり多くないこともあって、難度は昨年並みでしょう。神田女学園も各回次合計の応募者数が少し増えていて、実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みです。合格最低点は概ね昨年並みで、特に難度は変わっていないようです。

東京家政学院は各回次合計の応募者数が少し増え

ています。合格最低点は本稿執筆時点で未公表ですが、不合格者が少なく、難度面はあまり変わっていないようです。川村は小規模な入試の学校でしたが、今年は2月2日午前入試を3日午前に移し、4日午後に入試を新設しました。各回次合計の応募者数は大きく増えて小規模を脱しました。難度面は特に変わっていないようです。

淑徳SCが改称した小石川淑徳学園、北豊島、東京女子学院、聖ドミニコ学園、国本女子、瀧野川女子学園は例年と同様、小規模な入試でしたが、小石川淑徳学園、北豊島、聖ドミニコ学園、国本女子は応募者の増加が目立ちました。東京女子学院は2026年度からの共学化を公表していますが、今年の実績状況に目立った変化は見られません。また、愛国、成女学園と帰国生のみ募集の聖心女子は、本稿執筆時点で入試結果は未公表でした。

4. 男女校

●国立校、公立中高一貫校はこの項の最後に一括して取り上げます。

<難関校～中上位校>

大学附属校カラーの強い学校から見てみます。慶應義塾中等部は男女とも昨年並みの応募者数です。合格最低点は公表されませんが、1次合格者に2次を行う2段階選抜で、補欠も出ていますから、難度は変わっていないようです。青山学院は男子の応募者が少し減っていて、女子も若干減りました。実際の受験者数も同じ傾向ですが、合格者数は昨年並みで、実質倍率はやや緩和していますが、男女とも合格最低点は昨年並みで、補欠も出ていますから、出題難度との関係はありますが、難度に変化はなさそうです。

附属校カラーが薄い学校や、純然たる進学校も見てみます。渋谷教育学園渋谷の各回次合計の応募者数はやや減りました。内訳は、男子の2月1日午前の1回が増加、2日午前の2回と5日午前の3回は若干減、女子は1回が減っていて、2・3回も少し減っています。実際の受験者数は、3回の男子が昨年並みの応募者数と同じ傾向で、合格最低点は2回が昨年並み、1回と3回向井は男女とも少し上がっています。出題内容との関係はありますが、1回と3回は少し難化したかもしれません。2回は昨年並みの難度でしょう。

広尾学園は医進サイエンス、インターナショナルAG、同SG、本科の4課程です。各回次合計の応募者数は少し減っていますが、回次ごとでは2月2日午後

の医進サイエンスは男子が増加、女子も昨年並み、3日午前のインターAGは男女とも増加など、減っていない日程もあります。実質倍率は上がった回次、下がった回次がありますが、合格最低点は昨年とは小幅の変動に留まっていて、難度面は各回次ともあまり変わっていないようです。

広尾学園小石川は、旧村田女子高校を3年前に改編してスタートした学校で、2024年春に村田女子高校で入学した生徒が全員卒業しますから、帰国生以外は完全中高一貫の体制になります。インターナショナルAG、同SG、本科の3つの課程で、各回次合計の応募者数は減少が目立っていますが、スタート時には都内最大の応募者数だった人気は落ち着いてきたための減少です。ただ、回次ごとでは2月2日午前のインターAGは男女とも昨年をかなり上回っているなど、減っていない日程もあり、減っている回次は本科が中心ですから、難化による敬遠が進んでいるようです。合格最低点は、2月1日午前の1回は昨年並みですが、1日午後の2回、3日午後の3回は上昇、6日午後の4回は下がっています。1回の難度は昨年並みですが、2・3回は実質倍率が上がって難化したでしょう。4回は昨年が極端な高倍率で、今年はそれが少し緩和したことで合格最低点が下がったようです。数値的には入り易くなったことになりませんが、それでも高倍率ですから、「やや入り易くなった」程度でしょう。

開智日本橋学園はGLC、DLC、LCの3コース制で、国際バカロレアの教育を実践する学校です。各回次合計の応募者数は増加、回次ごとでも一部を除いて増えています。埼玉県の記事で、開智所沢中等の開校に伴う、併願可能な入試方式による応募者の大幅増加に触れていて、開智日本橋学園でも帰国生入試と最終回の2月4日午前の入試は他の開智各校と併願できる入試ですが、日程の関係もあって、併願可能な入試の開智日本橋学園への影響は小さく、応募者の増加は開智日本橋学園自身の人気による結果です。合格最低点は、多くは昨年並みですが一部に昨年より少し下がっている回次が見られます。しかし、得点分布で合格を決めていることから、各回次とも難度に変化はなさそうです。

東京農大第一は各回次男女とも応募者が増えていて人気が上がっています。実際の受験者数も増加、合格者数も増えていますが、受験者数の増加ほどには合格者が増えていない回次もあり、2月1日午後の1回と4日午前の3回は昨年並みの合格最低点ですが、2

日午後の2回は上がっています。出題内容との関係はありますが、1・3回は昨年並みの難度、2回は少し難化したようです。なお、同校は2025年度入試から、1日午前に4科入試を新設することを公表しています。大きく変わった入試結果になるかもしれません。

三田国際学園はインターナショナルサイエンス(以下ISC)、インターナショナル(以下IC)、メディカルサイエンステクノロジー(以下MST)の3コース制で、各回次合計の応募者数は減っていますが、2月1日午前の1回のISCとICが増加するなど、増えている回次もあり、応募者の減少は併願前提の受験生が中心のようです。合格最低点は3日午後のMSTと4日午後の4回は昨年並みですが、早い日程は少し下がっています。1回や1日午後の2回、2日午後の3回は、入り易くなっている可能性はありますが、もともと高倍率ですから「若干入り易くなった」程度でしょう。MSTと4回は難度に変化はなさそうです。

芝浦工大附属の各回次合計の応募者数は減少が目立ちますが、2月4日午前の入試を廃止したからで、既存の1日午前の1回、2日午前の2回、2日午後の英語・言語探究入試は男女とも応募者が増加、特に女子の増加が大きく、高い人気が続いています。合格最低点は1・2回が下がっていますが、実質倍率を考えると入り易くなったとは言いきく、出題内容や得点分布の関係でしょう。英語・言語探究入試は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

国学院久我山は男女別学で、一般の入試と上位のST選抜を実施しています。各回次男女合計の応募者数はやや減っていますが、内訳は男子が全回次で昨年並みまたは少し減っていて、女子は昨年並みもありますが増加が目立つ回次があって、女子の人气が優勢です。合格最低点は昨年並みの回次もありますが、応募者が減った男子が上がっている回次も見られます。出題内容との関係はありますが、全体にやや難化したと考えた方が良さそうです。

東京都市大等々力はS特選と特選の2コース制です。各回次合計の応募者数は昨年並みで、男子は各回次とも応募者増、女子は増えている回次もありますが、減っている回次も見られ男子の人气が優勢です。実質倍率は上下いろいろありますが、合格最低点は2月2日午後の2回S特選が上がっています。出題内容や得点分布の関係でしょう。他の回次は昨年並みで、各回次の難度はあまり変わっていないようです。

淑徳は東大セレクトとスーパー特進の2コース募集

です。各回次合計の応募者数は少し減っていて、男子は少し増えていたり、昨年並みの回次もありますが、女子はどの回次も減っていて、女子受験生が他校に流れたようです。2月1日午後の東大セレクトの合格最低点が下がっています。こちらも出題内容や得点分布の関係でしょう。他の回次は昨年並みで、各回次の難度はあまり変わっていないようです。

かえつ有明も各回次合計の応募者数が少し減っていて、2月1日午前の思考力特待と2日午前の国際生入試は別として、他の回次は男女とも昨年並みかやや減った応募者数です。実質倍率は少々上下が見られ、本稿執筆時点では合格最低点が公表されていませんが、各回次の難度は昨年とあまり変わっていないようです。

<中上位校～中堅前後の各校>

比較的内部進学率が高い大学系の学校から見えます。成城学園の各回次合計の応募者数は少し減っていて、女子よりも男子の減少が大きくなっています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、実質倍率は各回次男女ともやや緩和していますから、やや入り易くなったかもしれません。東海大高輪台は2月1日午前の1回、3日午前の2回、5日午前の3回とも女子の応募者の減少が目立っていて、男子はほぼ昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度に変化はなさそうです。

日大系列校の中では比較的進学校カラーが強い日大第二は、各回次合計の応募者数が少し減っていて、2月3日午前の2回の女子は特に減少が目立っています。入試早じまい傾向の影響でしょう。合格最低点は1日午前の1回も含めて昨年並みで、補欠も出ていますから難度は昨年並みでしょう。日大第一の各回次合計の応募者数も今年は少し減っていますが、男子は2日午前の4科2回、5日午前の2科2回の減少が目立っていて、女子は2科2回が減ったものの他の回次は少し増えています。合格最低点は1日午前の4科1回の男女、4科2回の男子が昨年並みだったものの、他の回次は下がっています。特に3日午前の2科1回や2科2回は目立って下がっています。出題内容との関係はありますが、2科1・2回は少し入り易くなったかもしれません。

目黒日大は2019年に日出が日大の準付属校になって校名を改称した学校で、人気が上がっていましたが、今年は各回次男女とも応募者が減っていて、特に2月1日午後や4日午後には減少が目立っています。実際の

受験者数も減っていますが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、応募者の減少は受験生が絞られたからです。難度が上がりすぎたからでしょう。こうした日大系列各校の応募者の減少について、マスコミで取り上げられた様々なトラブルが理由だ、との意見もあります。実際、保護者の一部から「子どもが『あの日大に通っているの?』』などと言われたらかわいそう」という声も聞きますが、「大学と中高は別」と考えている保護者の方が多く、応募者の減少は都内の中学受験での日大系各校の人気の、上昇から安定に変化してきたことが理由だと考えた方が良いでしょう。

次に附属ではない学校や附属カラーの薄い学校を見ていきます。最初に取り上げなければならないのは、昨年、東京女子学園が共学化、校名を変更した芝国際でしょう。昨年は各回次合計の応募者数が帰国生入試も含めて4,681名という大変な応募者数になり、都内トップ、関東全体でも栄東に次ぐ2位で、平均の実質倍率も7倍を超えて、あまりの激戦にSNSで批判も出るような事態になりました。今年は募集コースを整理し、適性検査型や自己PR型の入試を廃止し、中学の定員を高校募集から移して拡大しました。応募者数は各回次の男女とも大きく減少、各回次合計では8割以上減った入試になりました。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、実質倍率がかなり緩和していますから、難度面は入り易くなっています。

昨年、女子校の目黒星美学園が共学化したサレジアン国際学園世田谷は、芝国際に隠れてあまり目立たなかったのですが、共学化で人気が上がって各回次合計の応募者が一昨年の7倍に増加していて、例年なら大きな話題になった学校でした。インターナショナルアドバンス、同スタンダード、本科の3つの課程の募集で、今年も全回次で応募者の増加が続いています。増加の中心は男子で、女子校時代のイメージが薄くなっています。合格最低点は2月3日午後の3回と5日午前の4回が昨年並みですが、1日午前・午後の1回午前、1回午後と2日午後の2回は上がっています。3回と4回は昨年も高倍率だったため難度が高く、今年はその難度が続いていて、3・4回よりは入り易かった1回午前・午後と2回が難化して、3回・4回に近い水準になった入試だったようです。

サレジアン国際学園はサレジアン国際学園世田谷の系列校で、1年早く一昨年女子校の星美学園から共学化しました。同校もインターナショナルアドバンス、同スタンダード、本科の3つの課程の募集です。2月5

日午前の最後の入試が昨年並みの応募者数だったほかは全回次とも増加して、受験生への浸透と人気上昇が続いています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、実際の受験者数の増加ほどは合格者数が増えていないため、各回次とも昨年より難化したと思われる。

安田学園は各回次合計の応募者数が少し減っていますが2月4日午前の入試を取りやめたからで、存続した入試では各回次男女とも昨年並みの応募者数が増加していて、早い日程の増加が目立ちます。合格最低点は2月2日午前の適性検査型2回が上がっている他は昨年並みです。適性検査型2回は出題内容や得点分布の影響でしょう。入試回数を削減しましたが、受験生離れは起きず、難度を維持した入試だったようです。

青稜は、帰国生入試は別として一般入試は各回次男女とも応募者が少し減っています。難化が続いていたことで、敬遠されたのかもしれませんが。合格最低点は2月1日午前の1回A、2日午前の2回Aが少し下がっていて、1日午後の1回B、2日午後の2回Bは昨年並みです。出題内容との関係はありますが、1回Bと2回Bは昨年並みの難度だと思われます。1回Aと2回Aは少し入り易くなったかもしれません。

宝仙学園理数インターの各回次合計の応募者数は少し減っています。2月1日午前、2日午前、4日午前を実施している公立一貫型入試が減っていて、今年都内の公立一貫校の応募者が減った影響を受けています。本稿執筆時点で合格最低点が公表されていないことや、多彩なプレゼン型入試も行っていることから、難度面の判断は難しいところですが、全体的に昨年並みの難度だったようです。

順天は、2月4日午後の最終回の多面的入試は応募者が減ったものの、他の回次は応募者が増えていて、特に男子の増加が目立っています。同校は11月29日に2026年度から北里研究所と合併すること、北里大学への内部進学が可能になることを公表しましたが、公表したのは多くの受験生が受験校を決めている時期ですから、併願校選択を迷っていた受験生が少し増えた面はあるものの、今回の応募者の増加の多くは、グローバル化対応や理系への取り組みなど、同校が今まで積み上げてきた教育への期待の方が大きいと思われる。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、全体に少し難化したかもしれません。

東洋大京北は2月4日午前の4回の応募者が男女とも増えていますが、他の回次は少し減っていて、女子

の減少が目立っています。難化が進んできたためでしょう。合格最低点は4回と1日午前の1回が上がっていて、出題範囲との関係はありますが、少し難化したようです。1日午後の2回と2日午前の3回は昨年並みで、難度に変化はないでしょう。

駒込の各回次合計の応募者数は少し増えていて、増加の中心は2月1日午前の1回ですから、志望順位が高い受験生が増えていています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は昨年並みで、本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、少し難化したでしょう。

淑徳巣鴨はスーパー選抜と特進の2コース制です。各回次合計の応募者数はやや増えていますが、回次ごとに見ると2月2日午後までの入試で男子の増加が目立っていて、女子は2日午前が増えているものの、他の回次は少し減っています。合格最低点は一部を除いて昨年より少し上がっています。出題内容との関係はありますが、近年の人気を考えるとやや難化したと考えた方が良いでしょう。

日本工業大駒場は各回次合計の応募者数が少し減っていますが、近年の人気上昇から2月7日午前の入試を取りやめたからで、5日午前入試は応募者が減ったものの、1日午前・午後、2日午前・午後、3日午前は増えています。実際の受験者数はやや減っていますが、1日午後は合格最低点が上がっています。他の回次は昨年並みか若干上がった状態で、出題内容との関係はありますが、今年も少し難化したようです。

桜丘の各回次合計の応募者数は昨年並みで、各回次の男女とも細かい増減はあるものの、概ね昨年並みの応募者数です。昨年まで応募者の増加が続いていて、特に昨年は合格者数を前年の半分に減らして一気に難化しましたが、今年も合格者は増えていません。合格最低点は本稿執筆時点で非公表ですが、昨年難化した難度が続いているようです。文教大付属も各回次合計の応募者数が少し減っています。合格最低点は4科で少し上下が見られます。2科では2月2日午前が下がり、午後は上がっていて、他は昨年並みです。出題内容や得点分布が影響したようです。合格者数は昨年並みですから、難度に変化はなさそうです。

文化学園大杉並の各回次合計の応募者数は増加が目立っています。男女とも応募者が増えていますが、特に2月1日午後と2日午後の増加が大きく、他校併願受験生が増えたようです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、少し難化したかもしれません。立正大立正は各回次とも応募者が増えていて、男子の増

加が目立っています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は、合格者数が少ない回次、科目選択で上下のバラつきが見られるほか、2科4科選択入試で4科だけ上がっているケースがあるものの、出題内容や得点分布の影響でしょう。難度面はあまり変わっていないようです。

多摩大目黒は特待特進と進学の2コース制です。同校も各回次男女とも応募者が増えていて、人気が上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、併願受験生も多いので、難度は昨年並みでしょう。八雲学園の各回次合計の応募者数は少し増えていますが、2月2日午前の入試を3日午後に移したことで増加が中心です。合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度に変化はないでしょう。

郁文館はiP選抜、特進、GL特進、進学の4コース制で、各回次合計の応募者数が少し減っていますが、2月5日の入試を取りやめたことが理由で、他の日程は一部を除いて応募者が少し増えています。本稿執筆時点では合格最低点が未公表ですが、難度は昨年とあまり変わっていないようです。

東京成徳大は昨年に続いて各回次男女とも応募者が大きく増えていて、人気の上昇が続いています。併願受験生も多いのですが、連続した応募者の大幅な増加で、各回次とも少し難化したかもしれません。城西大附属城西は各回次合計の応募者数が大きく増えていますが、2月2日午前に2科4科選択入試を新設、2日午後入試を5日午前に移したことが増加の理由です。合格最低点は一部に上下が目立つ回次も見られますが、得点分布の関係でしょう。難度は昨年とあまり変わっていないようです。

帝京大帝京は一貫特進と一貫進学の2コース制です。2月2日午前と7日午前入試は昨年並みの応募者数でしたが他の回次は増えていて、各回次合計では増加が目立っています。難度面はあまり変わっていないようです。目白研心は各回次合計の応募者数が少し減っています。他校併願の受験生の一部が他校に流れたのかもしれませんが。前年度の合格最低点が未公表だったため比較はできませんが、難度に変化はなさそうです。

品川翔英は各回次合計の応募者数が大きく減っています。2月2日午前に入試を新設しましたが、3日午後と4日午後入試を取りやめ、科目選択入試の設定を変更するなどを行ったことが理由です。2020年に共学化、小野学園女子から校名を変更し、共学校として多くの受験生を集めてきて、次のステップとして学力

アップに方針を変更しました。合格最低点は直接比較できない回次もありますが、全体に少し難化したようです。

千代田国際も各回次合計の応募者の減少が目立ちました。募集休止中だった千代田女学園が共学校として募集を再開して3年目ですが、昨年は大幅に応募者が増えたので、反動があったようです。本稿執筆時点で合格最低点が未公表ですが、難度面は昨年とあまり変わっていないようです。共栄学園は特進、進学の2コース制です。各回次合計の応募者数は増加が目立ちます。各回次全体に増えていて、受験生の認知度が上がったようです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度はあまり変わっていないようです。

実践学園はリベラルアーツアンドサイエンスクラス(以下L&S)と在来クラスの2コース制です。各回次合計の応募者数は少し増えています。女子も増えていますが男子の増加が大きくなっています。合格最低点は上下バラつきがありますが、実際の受験者数が増えて合格者は絞っていますので、少し難化したようです。

上野学園は国際コースを新設、同コースと在来コース、さらに音楽専攻も選択できる体制になりました。各回次合計の応募者数は少し増えています。新設の国際コースは小規模でした。公表が遅かったため、受験生への浸透が不十分だったからかもしれません。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。国際コースは小規模なので難度のコメントは控えます。

国土館は小規模な入試の学校でしたが、今年に入試の新設もあって応募者が大きく増えて小規模を脱しました。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。成立学園の各回次合計の応募者数は昨年並みでした。合格最低点は上下バラつきが見られますが、不合格者が少ないこともあって難度に変化はなさそうです。

新渡戸文化は各回次合計の応募者数が少し減っています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、スピーチなどの入試もあって、難度面はあまり変わっていないでしょう。

まだ追加入試などで応募者が増えるかもしれませんが、東京立正、貞静学園、目黒学院、駿台学園、武蔵野、修徳は小規模な入試でした。小規模ながら、目黒学院と修徳は応募者の増加が目立っています。また、清明学園と東邦音大東邦は本稿執筆時点で入試結果は

未公表です。

＜国立校・公立中高一貫校＞

お茶の水女子大附属は共学ですが、男子よりも女子の受験生が大多数です。一般入試は男女とも応募者が少し増えています。合格最低点はもともと公表されませんが、難度はあまり変わっていないようです。筑波大附属は男女とも応募者が少し減っていますが、合格最低点は男女とも上がっています。安全志向から受験生が絞られたのでしょう。もう限界近い難度ですから、難度はあまり変わっていないようです。

東京学芸大世田谷は男子が応募者増加、女子は昨年並みです。合格最低点は公表されませんが、補欠を出していることから、男女とも難度は変わっていないようです。東京学芸大竹早は、男子の応募者がやや減、女子は減っています。同校も補欠を出していることもあって、難度はあまり変わっていないようです。東京学芸大国際中等は主に帰国・外国生対象のA、一般受験生のBとも応募者は若干減っています。ただ、入り易くなるほどではなく、難度は昨年並みでしょう。

東大附属中等は、推薦・一般入試とも応募者が少し減っていますが、女子よりも男子の減少が大きくなっています。推薦はともかくとして、一般入試は適性検査と実技で、少々応募者が減っても難度が変わるほどのことはなかったようです。

公立中高一貫校では、千代田区立の九段中等は、今回から男女別の定員枠を廃止しました。千代田区民枠の区分Aは応募者が減って、一般都民枠の区分Bは少

し増えました。Aは2月1日や2日入試の私立に受験生が流れたのかもしれませんが。Aはやや入り易くなったようです。Bはもともと高倍率ですから、難度に変化はなさそうです。

都立も見てみます。白鷗高附属は帰国・外国人枠、伝統文化の特別枠、一般枠の3本立てです。帰国・外国人枠と特別枠は小規模ですが、帰国・外国人枠の応募者の増加が目立ちました。一般枠は男子が応募者減、女子もやや減っています。もともと高倍率でしたから、難度は昨年並みでしょう。小石川中等は特別枠と一般枠の2本立てで、特別枠は小規模です。一般枠では同校も男子の応募者が減って、女子はやや減です。同校ももともと高倍率でしたから、難度は昨年並みでしょう。

両国高附属も応募者数は少し減っていますが、同校は女子が減少、男子もやや減っています。もともと男子人気強い学校だからでしょう。やはりまだ高めの実質倍率ですから、難度に変化はなさそうです。桜修館は男女とも応募者の減少が目立ちます。ただ、難度が緩和するほどの減少ではなかったようです。入試早じまい傾向の強まりで2月1日や2日の私立を高い志望順位で考える受験生が増えた影響かもしれません。

大泉高附属は女子の応募者数が減り、男子も少し減りました。やはりもともと高倍率でしたから、難度は昨年並みでしょう。応募者の減少が目立つ学校が多い中で富士高附属は男子の応募者が若干増えていて、女子も減ってはいますが僅かです。同校も難度に変化はないでしょう。

MEMO

● 東京23区 難易度別グルーピング ●

前掲のグラフは、各校の代表的な今春の入試に向けての直前予測における難易度(今春の受験生が志望校決定の参考にしたと思われる難易度、結果偏差値ではありません)をもとに、東京23区私国立中を次のようにグルーピングして作成しました。公立一貫校は合否分布の幅が広いので、ここでは外しています。また、特待入試等では特待生合格を前提とした難易度です。なお、このグルーピングは学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…麻布・海城・開成・駒場東邦・筑波大駒場・本郷・武蔵・早稲田・早大学院・桜蔭・鷗友学園・女子学院・白百合学園・豊島岡女子・雙葉・慶應義塾中等部・渋谷教育学園渋谷・筑波大附属・広尾学園
- B…学習院・暁星・攻玉社・芝・城北・巣鴨・世田谷学園・東京都市大附属・明大中野・立教池袋・大妻・学習院女子・香蘭女学校・頌栄女子学院・東洋英和女学院・立教女学院・青山学院・お茶の水女子大附属(女子)・開智日本橋学園・かえつ有明(特待)・国学院久我山(男女S T)・芝浦工大附属・淑徳(東大セレクト)・東京学芸大国際・東京学芸大世田谷・東京都市大等々力(S特選)・東京農大第一・広尾学園小石川・三田国際学園
- C…足立学園(特奨)・佼成学園(特奨)・聖学院(特待)・成城・高輪・獨協・日本学園・日大豊山・跡見学園(特待)・江戸川女子(一般)・大妻中野・共立女子・恵泉女学園・光塩女子学院・実践女子学園・品川女子学院・昭和女子大附属・女子美術大附属・聖心女子(帰国生のみ)・田園調布学園・東京女学館・富士見・普連土学園・山脇学園・お茶の水女子大附属(男子)・かえつ有明(一般)・国学院久我山(男女一般)・駒込(特待)・サレジオン国際学園世田谷(特待)・芝国際・淑徳(スーパー特進)・淑徳巣鴨(スカラシップ)・順天・成城学園・青稜・東京学芸大竹早・東大附属・東京都市大等々力(特選)・東洋大京北・日大第二・宝仙学園理数インター・目黒日大(特待)・安田学園
- D…足立学園(一般)・京華・佼成学園(一般)・聖学院(一般)・跡見学園(一般)・江戸川女子(基礎学力)・京華女子(特待)・麴町学園女子(特待)・佼成学園女子(特待)・十文字・女子聖学院・玉川聖学院・東京家政大附属・トキワ松学園・中村(特待)・日大豊山女子・文京学院大女子・三輪田学園・和洋九段女子・郁文館(i P選抜・G L特進・総合)・共栄学園(特進)・駒込(一般)・桜丘・サレジオン国際学園・サレジオン国際学園世田谷(一般)・実践学園(特待)・品川翔英・淑徳巣鴨(一般)・城西大附属城西・多摩大目黒・千代田国際・帝京大帝京・東海大高輪台・東京成徳大・日本工業大駒場・日大第一・文化学園大杉並・文教大附属・目黒日大(一般)・目白研心・八雲学園・立正大立正
- E…足立学園(志入試)・愛国・川村・神田女学園・北豊島・国本女子・京華女子(一般)・小石川淑徳学園・麴町学園女子(一般)・佼成学園女子(一般)・成女学園・聖ドミニコ学園・瀧野川女子学園・東京家政学院・東京女子学院・中村(一般)・富士見丘・郁文館(未来力)・上野学園・共栄学園(進学)・国士館・実践学園(一般)・修徳・駿台学園・清明学園・成立学園・貞静学園・東京立正・東邦音大東邦・新渡戸文化・武蔵野・目黒学院